

「安曇野の地で学びを続けていくために」

会長 浅川 浩

創立 138 年目を迎える安曇野市教育会は、今年度も力強く活動がスタートしました。

去る 5 月 16 日（土）には、豊科公民館大ホールにて「総集会」を開催しました。会員発表では豊科北小学校 今井凜先生と豊科東小学校 大輪拓也先生から、昨年度の教育課題委員会で伊那小学校へ視察に行った成果を「日常の学びに根ざしたプログラミング教育の在り方」という演題で発表していただきました。また、講演会では、長野大学社会福祉学部教授 早坂 淳先生に「公教育を再考するー多様性とウエルビーイングに着目してー」という演題でご講演いただきました。早坂先生がお話しされた「多様性×協働 新しい価値」とは、「ばらばら（多様性）だけど、ゆるやかに一つ（協働）につながっていくことで、新しいわくわく（価値）が生まれる」ことで、これから学校の向かうべき方向を教えてくださいました。そして「協働とは何かを知る」「対立を歓迎する」「違いを楽しむ」この 3 つを公教育の中で体験し学ぶことで、つながりを持ち、やりがいを感じ、自分らしさを知ることができて、「幸せ」を広げることができると教えてくださいました。教育会活動の出発に相応しい、元気をもらえるお話をお聴きすることができました。今年度総集会は、昨年度に続き「土曜日午前開催」としました。今後も会員の皆様の声を大切にしながら、総集会をより多くの会員の皆様が参加できる内容や実施方法を考えていきたいと思ひます。

5 月 25 日（月）には、初任者歓迎研修会を信濃教育会と共催で行いました。先輩からのお話をお聴きするなど充実した研修の後、茶話会で若い先生方のお話を聴くことができました。子どもたちとの生活の中で嬉しかったことや自身のこれからの目標などをお聴きし、若い先生方の思いや願いに寄り添う教育会でありたいと感じました。

6 月 13 日（土）には、「先人等に学ぶ会」を開催しました。初代会長 岡村千馬太先生の墓参を執り行った後、井口喜源治記念館事務局長 大倉 嘉郎先生を講師に学習会を行いました。先輩方が築いてこられた功績を知り、学び続けていくことの大切さを実感しました。

今年度も会員の主体的な参加・参画により、各種委員会や同好会等様々な活動が展開されます。皆さんとこの郷土、安曇野の地で学びを続けていくために、会員の声に耳を傾け、各活動に多くの会員の皆様が参加できるように改善を進めていきたいと思ひます、持続可能な教育会を皆で一緒に創り続けましよう。